

◆◆◆◆◆
平良 幸夫 議員



をとらないとの評価を受けました。

質 課題もあつたと思いますが。
答 農林水産課長 佐渡山 安正
我々が当初、想定もしていなかったシロガシラ、いわゆる有害鳥獣の被害があつた。

あと一点、土壌改良が、今後、大きな課題になってくるのかなと考えています。

質 今後、どのように推進していくのか。
答 農林水産課長 佐渡山 安正
今後も川上村と連携を図りながら、試験栽培を行って参りたいと思つております。

大きな目標としては、再来年ぐらゐに本格的に農家へ普及していきたいと考えています。

今年から8農家の方々に、試験栽培を行つてもらつたことにしています。

質 拠点産地認定されるに当たつて、メリットがありますか。
答 農林水産課長 佐渡山 安正
認定地区に指定された場合には、技術的課題の解決や各種補助事業の優先的導入、積極的な支援が受けられることになっていきます。

認定地区に指定された場合には、技術的課題の解決や各種補助事業の優先的導入、積極的な支援が受けられることになっていきます。

パッションフルーツ栽培においては、受粉にクロマルハナ蜂を導入して試験栽培も行つている。

今年、県の補助金を使い、天敵防除の試験を始めています。

質 認定後の現状は、どうなつていくのか。
答 農林水産課長 佐渡山 安正
小菊に関しては、認定後から現在までに、面積は半分以下に落ち込んでおります。しかし、出荷量としては横ばい、反収としても伸びている。

ドラセナについては、認定後、生産者が減り続けており、出荷量、反収とも減少している状況。

パッションフルーツについては、出荷量、反収ともに増えております。

アテモヤについては、平成27年度において、前年度と比較すると約2倍の出荷量になっております。

質 本村はこれまで、村独自でどのような施策を講じてきたのか。
答 農林水産課長 佐渡山 安正
認定作物だけではなくて、農業全体を振興する意味からも、補助等を全体的におこなつている。

特別栽培をすることによって、今回、生活協同組合のパルシステ

ム会員に対して、ネット販売を行うことができました。差別化を図る意味では、販売促進も含め栽培技術の確立、そういった部分を、今後とも支援していきたい。

◆◆◆◆◆
沖縄鉄軌道計画

質 鉄軌道ルート内の村内通過について、県など関係機関に対してどのような働きかけをしたのか。
答 村長 長浜 善巳
恩納村は、県内でも有数の観光地で今後、ますます観光客の増大が見込まれます。

鉄軌道の導入、恩納村は是非とも必要だろうと思つております。今後は働きかけを、やっていきたい。

答 企画課長 山城 雅人
今のところ、直接内閣府や沖縄県への働きかけは行っていない。

質 ルートの決定に向けて、村を挙げて何らかの行動が必要ではないか。
答 村長 長浜 善巳
本村と致しまして、是非ともルートに選定されるよう、沖縄県へ働きかけていきたい。

いかなと思つています。

宜野座村に於いての村単の支援事業。以前に村長も良い事例は取り上げていきたいという答弁をしておりました。村単の給付金の答弁を求めます。

答 村長 長浜 善巳
川上村からレタスの高度な技術を積極的に活用し、新規就農者の支援、キーとなる栽培農家を育てて、仕事づくり、定住化に向けて栽培農家を育てる手だてを関係課と調整をし、進めて参りたい。

◆◆◆◆◆
農業用水の整備

質 レタス栽培が本格化した場合、農業用水が必要である。
答 村長 長浜 善巳
畑灌漑事業の導入に向けた要望は3カ所。導入地区の地権者の合意形成が一番大事、地域の合意形成が図られれば村として、積極的に農業振興上、推進して参りたい。

畑灌漑事業の導入に向けた要望は3カ所。導入地区の地権者の合意形成が一番大事、地域の合意形成が図られれば村として、積極的に農業振興上、推進して参りたい。

◆◆◆◆◆
大城 保 議員



◆◆◆◆◆
シンカプロジェクト

質 恩納村において、若者定住と遊休地の解消、農業生産意欲の向上、地産地消の推進を目標に、シンカプロジェクトを計画され、レタスの試験栽培を行っている。

このレタスを、村内の飲食店に無料提供し、反応を見てみたいと、反応はどうだったのか。

答 農林水産課長 佐渡山 安正
10のホテルへ、レタスを提供致し、「色、形、香り、食感、食味」について「良い」、今後使用したいという結果が出ております。

質 過去7年の恩納村のキビの反

収81,000円。村の計画では、キビの5倍の生産量の見込みであると話していました。

試験栽培の結果、数値的に出ているのか。

答 農林水産課長 佐渡山 安正
10アール当たり約5,949キログラムを収穫、平均1キログラム当たり128円、約761,472円の生産高になります。

質 恩納村の28年の方向性で、栽培農家の確保とあります。
答 農林水産課長 佐渡山 安正
野菜栽培経験のある農信協の野菜部会を、中心に募集をかけた。

質 8農家に対しての試験栽培、初めての作物はリスクを背負います。シロガシラ、土壌改良、その辺のサポート、ケアは、どのようにしていくのか。
答 農林水産課長 佐渡山 安正
シロガシラを捕獲する箱穴を何カ所かに置いて、実験してみようと考えている。

堆肥と土壌改良材については、予算の範囲内で対応して参りたい。

質 今回、肥培管理は、職員で行つたと聞いています。職員が就農するわけではありませんか。

試験圃場においてレタス栽培をしたい若者を募集し、村単の支援事業で日々の管理をさせる。技術を学べば、即、就農と、就農率も増え、若者の定住にも繋がると思っています。

答 村単の支援事業はできないか。農林水産課長 佐渡山 安正
1、2年経験することで、直ぐレタス栽培ができるかと、私も思っています。学びたい方がいるのであれば、検討していきたい。

質 村長も川上村を訪れ現状、意見交換等からシンカプロジェクトに対する熱意を感じたと思えます。このレタス栽培を成功させる。まず一農家、成功事例をつつた方が早道じゃないかと思えます。

村単の支援事業で成功事例をつつて頂いて、仕事が生まれ、若者が来て、家庭を持って子供ができ、生活をする。それが村長のいう「まち・ひと・しごと創生戦略」の位置づけになるんじゃないか。